

財団法人 日本クリスチャン・アカデミー機関誌

2012年11月号

はなしあい

題字 元総理 片山哲 筆

発行編集人

財団法人 日本クリスチャン・アカデミー
理事長 シュベネマン クラウス

発行所

日本クリスチャン・アカデミー
京都市左京区一乗寺竹ノ内町23
075 (711) 2147

NIPPON CHRISTIAN ACADEMY

第539号

先日ある本のなかで、阪大で医学概論を教えていた故中川米造氏に関する論考を読んだのだが、そこに一瞬立ち止まった行があった。中川氏は昭和二十年四月に京大医学部に入学したそうだが、入学早々まず医学とは何かを教わるものだと思っていると、生理学などといった各論の入門がはじまって驚いたという。そして医学とは何かが分らないまましばらくした六月、大学で、ある軍医の講演を聴いたところ、その軍医は「医学とは戦争をするためにある」と熱弁したという。たしかに、たとえばマラリヤの治療法の確立は、赤道付近に何万人という兵士を派遣する国家にとつては一大事だろう。兵士の健康管理、さらに生物兵器など、医学と戦争は昔から切っても切れない関係にある。西洋における歴史上はじめての病院は四世紀にローマ帝国の東方地域でキリスト教によつて設立されたものだというのは通説であるが、それでも、ローマ軍の兵営にはもっと以前から病院はあった。ただしそれはもっぱら兵士のための病院であつて、一

般人は診療や入院の対象にはならなかった。

いや、医学は兵器だとか、戦争のための道具だと言いたいのではない。そうではなくて、一体医学とは何なのだろうと考へてしまったわけだ。病人を治療して健康にしてくれるものだというのは、まったくその通りなのだが、では

医療とは、いのちとは何なのだろうか？



関西セミナーハウス活動センター

運営委員 土井 健司

治療法の分らない病人はどうなるのだろう。不治の病に冒された病人はどうなるのだろうか。病人は誰でもみんな平等に治療してもらえるのだろうか。美容整形など、病気とは言えないようなものに施術をするのはどうしてだろうか。先日ドライマウスのため口腔外科で診てもらったが、加齢

のためと言われ、うがい薬を出されただけだった。加齢のための不具合など、体の不具合がすべて医療・医学の対象となるわけではないし、反対に不具合でなくとも医療・医学の対象となるものもある。ところが近年の話題のひとつが、認知症の老人のケアである。とくに嚔下がむずかしい

い者に胃瘻を設置することの是非が話題となる。誰でも、どんな状況にあつても、とにかく治療を行うのが医療だとナイーブに考へていると、そうともかぎらないようだ。嚔下できない、むずかしいとなると経口とは異なる方法で栄養を身体に入れなければならぬ。その方法のひとつが胃瘻なのだが、そんなことをして長生きをさせて何になるのか、そもそも本人はそれを望んでいるのか議論される。

いのちを大切にすべきだとは思いつつも、看護する家族の負担も相当なものだろう。容易には割り切れない問題だと言える。

そこで、とかく原理・原則を振りかざして正論もどきを弁ずるのではなく、一体現実にはどのような問題があるのか、事例などをもとに臨床経験の豊富な医療者から聞いてみなければならぬ。十二月十五日に予定されている医師の根岸宏邦先生にはこのあたりをじっくりと伺つてみたい。また、あわせて尊厳死の是非の法制化も問題となっている。医学が病人を健康にするものというナイーブな思いなしと同様、尊厳死は過剰医療を避けて自然に死ぬことというのと同様にナイーブな思い込みのようだ。そもそもそれだけなら、なぜ法制化しなければならぬのか。来年一月十九日に大谷いづみ先生からは、尊厳死をめぐる話をしっかりと伺いたいと思つている。またいづれにおいても多くの方の参加をえて、充実した議論の場になればと願つている。

(関西学院大学教授)

関東活動センター

●今日の課題プログラム

「その後の被災地

～災害と心のケアについて」

公益社団法人 日本キリスト教海外医療協力会(JOCS)

総主事 大江 浩さん

2012年9月21日(金)

日本キリスト教会館



三・一一から約一年半、被災地は「過去」になりつつある。今回は、講師自身が体験した阪神大震災、その後の国内外の緊急支援、またJOCSの使命と東日本大震災での支援の現場を「心の傷、心の

ケア」の視点からお話をいただいた。

一九九五年一月十七日午前五時四十六分、阪神淡路大震災が発生した。一〇〇人いれば一〇〇通りのその瞬間があり、一〇〇通りの十七年間がある。被災地での一分一秒が分けた「生と死」はあまりに非情だった。

震災は、避難所でも、仮設住宅でも、「共生」に伴う様々な問題や困難を浮き彫りにした。生存者の罪責の念と支援者の燃え尽き症候群、そして被災者の孤独死も悲痛な現実だった。

災害後、被災地は「四つのステージ」を経験する。「英雄期・ハネムーン期・幻滅期・

回復(再建)期」である。災害は、悲痛な体験によって「惨事ストレス」をもたらし、人々は深く傷つき、PTSD(心的外傷後ストレス障害)に至るケースもある。「外傷的記憶は言葉を持たない凍りついた記憶である」(ジュディス・ハーマン)。PTSDには、「四つの反応」一身体的反応・行動的反応・思考的反応・感情的反応がある。

私は、一九九六年と二〇一一年の計二回、米国サンフランシスコで「災害と心のケア」のための研修を受ける機会を与えられた。そこでの最も大きな学びは、「災害の後、最も大切な3つの“T”は「Tears/Talk/Time」であった。涙を流し、体験を言語化し、誰かと分かち合い、悲しみの時に浸ること、を意味する。

JOCSは東日本大震災後、ワーカー(保健医療従事者)や医療ボランティアの協力を得て避難所での巡回診療活動を約二か月行った。その後、釜石ではカウンセラーや看護チームの定期的な派遣に切り替え、仮設住宅や孤立集落の在宅被災者の方々の保健ケア・心理ケアの活動を今も

続けている。被災者の睡眠障害・アルコール/ギャンブル依存・DV(家庭内暴力)・自死・孤独死などの問題は深刻化している。派遣する看護チームも良く知る被災者の「自死」を経験したり、心痛める出来事に少なからず出会う。

JOCSは、途上国でも被災地でも、「人々を待つのではなく、人々のもとへ赴き、そこに留まり、痛みを分かち合い、寄り添いたいと願っている。JOCSはアジア・アフリカでも、被災地でも「よそ者」であり、限界にも直面する。しかし「よそ者」だからこそできることもあると信じて、共に生きたい。今の最大の懸念は、被災者の孤立・孤独、自死の問題であると同時に、被災者を支援する支援者の心身両面における疲弊・燃えつきである。

トラウマケアの第一人者である武蔵野大学の小西聖子教授(精神科医)は、「被害者(被災者)は時計を二つ持ちます。その時その瞬間で止まった時計と今を刻む時計です。それは互いにぶつかり合うのです」「トラウマについ

ての話を聞く者は無力感と自責感を感じます。話を聞くことによって聞く側も傷つきます」と語っている。「出口の見えない絶望のトンネル」の闇を歩む被災者をケアする支援者自身もケアを必要としている。

JOCSはキリスト教を基盤とする団体だが、仏教が根付く地縁血縁社会である被災地では、宗教の違いを超えて、僧侶の方々と共に活動をした。被災者の方々の中には、「当初はキリスト教に対する違和感があった」と率直に語る方もおられたが、今は、「キリスト教の人たちが最も長く居続けてくれていて」と理解が進みつつあり、感謝している。一方で「キリストが俺たちを助けたのではない。助けたのは自衛隊だ」とキリスト教に拒否反応を示す方もおられる。このたびの大震災の支援にあたって、多くの宗教団体が救済に力を尽くしつつ、様々な壁に直面し、ジレンマや葛藤があることは否めない。まだ私たちはそれに対する答えは見い出せていない。「人々の苦難に寄り添う」その大切さと難しさを痛感し



バスで海岸線をめぐると、敦賀原発、もんじゅ、美浜原発、大飯原発が青く輝く海に突如として現れる。これらの地域の不自然に立派な施設は、原発マネーがどれだけ落ちたかを物語っていた。山崎さんも元小学校教諭の杉原厚子さんも、金が地域を引き裂き、人を墮落させることになされた。民宿の秦俊司さんと明通寺の中嶋哲演さんは、一九六八年の原発誘致計画について話してくれた。立地地域のほとんどが賛成したが、「小浜市民の会」を通して反

対運動が盛り上がり、その世論を市長が尊重したことで計画が撤回されたという。原発と引き替えにちらつかされたトンネルや道路整備は、本来行政の役割と訴えて建設したことから、原発に頼らない町づくりを進められたそうだ。



経済成長を追い求めてきたことにより、格差が広がり、弱者は置き去りにされている現在の社会の有り様を根本から問い直し、より良き社会に向けた一歩を一人一人の足もとから踏み出すためのヒントを得ることを目的としたセミナーには、20名が参加しました。

産業革命以後、ひたすら右肩上がりの経済成長を追い求めてきた結果、経済成長は限界を迎え、一方で社会生活の質が悪化し、私たちの社会はいま、「経済成長≡消費中心」の社会からいかに脱却するのかという課題に直面しています。脱成長の社会を足もとから作っていく運動の一

た。「森と暮らすどんぐり倶楽部」の松下照幸さんは、脱原発の政策提言をしている。原発があることの不安、なくなることの不安を福井の人々に押しつけていることを改めて認識した旅だった。

関西セミナーハウス活動センター

●2012年度「開発教育セミナー」第3回
「脱原発のための福井スタディツアー」

「若狭ネット」福井連絡先
「サヨナラ原発福井ネットワーク」代表

山崎 隆敏さん

2012年9月15日(土) ～ 16日(日)

ている。寄り添いには「聴く力」が欠かせない。そして「祈る力」も必要である。被災地は忘れ去られ、取り残されつつある。「喪の途上」にある被災者の痛みを我がこととし、希望の回復に向けて共に歩みたいと思う。

は消せない。しかしいつかその記憶を乗り越える日が来る信じたい。「共に生きる」泣くものと共に泣き、喜ぶものと共に喜ぶーことを通して。

この報告は、講師からご寄稿いただき、関東活動センターの責務で編集しました

●2012年度「開発教育セミナー」第4回
「脱成長の社会をデザインする」
「豊かさのものをさし」を見直す」

国際基督教大学社会科学研究所 中野 佳裕さん

2012年10月13日(土) ～ 14日(日)

ら問い直し、より良き社会に向けた一歩を一人一人の足もとから踏み出すためのヒントを得ることを目的としたセミナーには、20名が参加しました。

つとして、イギリスで提唱された「Transition Town」という取組みが紹介されました。個人の選択肢やそれに応じた可能性(Capability)の増大、民衆が制度に辱められることのない(Descent)な社会や環境への配慮を共通の認識として、世界では一、八〇〇以上、少数ですが日本でも、Transition Townの取組みが行われています。第3セッションでは、参加者はいくつかのグループに分かれて、それぞれのグループのメンバーが足もとで直面している課題を解決するためのより具体的な取組みを話し合いました。

プログラム案内

◆**関東活動センター**

■**日本クリスチャン・アカデミー
聖書講座**

「旧約聖書と新約聖書—「聖書」とはなにか」

講 師：上村 静さん (東京大学非常勤講師)

日 時：2012 年 6 月～12 月の土曜日・原則月 1 回 全 5 回 14:00～16:00

⑤ 12 月 1 日(土) *①～④は終了

会 場：日本キリスト教会館 6 階会議室

参加費：1,200 円 (賛助会員 1,000 円/学生 500 円)

テキスト：『旧約聖書と新約聖書』(2011 年刊・新教出版社)

共 催：早稲田奉仕園

◆**関西セミナーハウス活動センター**

■**もみじまつり関連特別展**

渡辺総一作品展「み言葉はわが道の光」

日 時：2012 年 11 月 18 日(日)～23 日(金・祝)
期間中 9:00～18:00
但し 18 日 13:00 より、23 日 16:30 終了

会 場：関西セミナーハウス

入場料：18 日～22 日無料、23 日はもみじまつり入場料が必要。

■**もみじまつり**

共 催：関西セミナーハウス

お茶席、箏演奏、ファミリーコンサート、渡辺総一作品展「み言葉はわが道の光」、日本舞踊

日 時：2012 年 11 月 23 日(金・祝) 9:00～16:30

前 売：3,000 円 (お茶席 2 席、弁当込)

■**開発教育セミナー**

2012 年度第 6 回「尖閣問題から沖縄を考える ～基地のある沖縄から平和を展望する拠点へ～」

講 師：豊下櫛彦さん (関西学院大学法学部教授)

日 時：2012 年 12 月 8 日(土) 16:00～9 日(日) 12:00

参加費：10,500 円 (1 泊 2 食込み)

■**2012 年度 修学院フォーラム**

「高齢を生きる—認知症・胃ろう・尊厳死を見据えて」

第 3 回「高齢を生きる—認知症・医療的介入 (胃ろうなど)・尊厳死を見据えて—制度と現場のはざまで」

講 師：根岸 宏邦さん (豊中愛和会理事長)

日 時：2012 年 12 月 15 日(土) 13:30～17:30

参加費：2,000 円、学生 500 円 (コーヒー込)

ウェブサイトを
ご覧ください

財団本部

<http://www.academy-nippon.com>

関東活動センター

<http://www.academy-tokyo.com>

関西セミナーハウス

<http://www.kansai-seminarhouse.com/>

関西セミナーハウス活動センター

<http://www.academy-kansai.org>

財団法人 日本クリスチャン・アカデミー
理事長 シュベネマン クラウス

本部事務局

〒 606-8134 京都市左京区一乗寺竹ノ内町 23
TEL 075-711-2147
FAX 075-701-5256

関東活動センター

〒 169-0051 東京都新宿区西早稲田 2-3-18
日本キリスト教会館 1 F
TEL 03-3207-6198
FAX 03-3207-2478
E-mail:info@academy-tokyo.com

関西セミナーハウス /

関西セミナーハウス活動センター
〒 606-8134 京都市左京区一乗寺竹ノ内町 23
FAX 075-701-5256

関西セミナーハウス

TEL 075-711-2115
E-mail:info@academy-kansai.com

関西セミナーハウス活動センター

TEL 075-711-2117
E-mail:office@academy-kansai.org

賛助会費・後援会費・寄付金報告

2012 年 9 月 1 日～2012 年 9 月 30 日
(順不同・敬称略)

◆**関東活動センター**

賛助会費

キリスト教保育連盟 200,000
松島 美一 5,000

寄付金

禿 準一 4,000

◆**関西セミナーハウス活動センター**

賛助会費

佐治 孝典 3,000
シュベネマン クラウス 10,000

寄付金

原田 博充 3,000
金山 顕子 1,040
金山 顕子 15,500

以上、感謝をもってご報告申し上げます。

前号訂正

第 538 号(2012 年 10 月号)1 ページ巻頭言に、校正ミスがありました。
後ろから 7 行目

誤：「respondeo ? ergo sum」 正：「respondeo ergo sum」

お詫びして訂正いたします。

2012 年度関西セミナーハウス

もみじまつり

お茶席・箏演奏・ファミリーコンサート、日本舞踊
渡辺総一作品展 (11 月 18 日～)、作者によるトークタイム

日時 11 月 23 日 (金・祝) 9:00～16:30

前売券 3,000 円 (お茶席 2 席、弁当込み)

お問合せ・申込み 075-711-2117

office @ academy-kansai.org